

授業概要

自分自身や日常生活の中で接する人々の心（行動・感情・認知）とはどのようなものなのかを、心理学の様々な領域の知見から学び理解を深める。具体的には、人の思考、記憶、認知、感情、行動、発達、精神的な健康と不健康などについての座学に加えて、得られた知識を活用したディスカッションを行う。座学とディスカッションを用いて心理学の理論と実践を講義する。

授業計画

第1回	授業の進め方、履修上の注意等について説明、および、心理学の歴史
第2回	ニューロンや神経系の仕組み、覚醒や睡眠
第3回	感覚や視聴覚、注意
第4回	古典的条件づけやオペラント条件づけ、その他の学習や脳との関連
第5回	記憶の働きや障害、問題解決や意思決定
第6回	日常生活で見られる人の行動について、第2回から第5回までで学んだ内容から解釈、他者に説明する。また説明内容に基づき討論を実施する。
第7回	動機づけや食行動、社会的動機づけ
第8回	感情と身体や社会との関係や、感情制御
第9回	生涯発達、認知・思考の発達、自己の発達、対人関係や社会性の発達
第10回	パーソナリティの過去から現在までの捉え方と測定方法、知能
第11回	日常生活で見られる人の行動について、第7回から第10回までで学んだ内容から解釈、他者に説明する。また説明内容に基づき討論を実施する。
第12回	気分障害、不安障害、発達障害
第13回	精神力動的アプローチ、人間性中心アプローチ、認知・行動療法アプローチ
第14回	ストレスとその影響、ストレス対処、対人関係や個人特性
第15回	日常生活で見られる人の行動について、第12回から第14回までで学んだ内容から解釈、他者に説明する。また説明内容に基づき討論を実施する。
第16回	期末レポート課題を実施

到達目標

- 習得した知識を使って日常生活の人の行動を説明できる。
- 習得した知識を使って日常生活の問題点を心理学的に検討できる。
- 自分の考えを他者が理解できるように説明できる。

履修上の注意

- 毎週の講義までと講義後に簡単なレポートの提出を求める。また第6回、第11回、第15回の授業後にはレポートを課す。総じて文章を書く機会が非常に多い授業である。
- 授業内で扱う内容が日常生活の中のどのような場面で見られるのかを興味をもって考えられると、理解が捗るので是非取り組んでほしい。
- やむを得ない場合の遅刻、欠席は考慮するので必ず申し出ること。
- 遅刻2回で欠席1回とする。遅刻は最終評定から減点する。
- 欠席が4回を超えた場合には単位を取得できない。

予習復習

- 予習：各授業テーマの用語について調べてくる
- 復習：配布資料を読み直し、疑問点を解決する。

評価方法

- 討論後レポート60%（20%×3回）、最終レポート40%で評価する。

テキスト

- 教科書は使用しない。授業内で資料を配布する。